

乃木靜子夫人  
銅像建立除幕式

乃木靜子夫人奉賛会

甲突川左岸緑地公園  
平成二十八年十一月二十七日



## 御礼ご挨拶

大正八年十一月二十七日、今から九十七年前に村野山人・須美子夫妻により、乃木静子夫人像が生誕地である新屋敷町に建立されました。

その後、昭和の大戦末期に銅像は供出され、台座だけが新屋敷町甲突川左岸緑地公園の一角に取り残され、静子の末兄の「海軍中将湯地定監君頌徳碑」が今でもその台座を静かに見守っております。

今から四年前、夫人没後百年祭がきっかけで復元の声が高まり、二年後の夫妻のご命日に「乃木静子夫人奉賛会」を発足させ、今日まで銅像建立に奔走して参りました。

このたび多くの方々のおたかひご支援で、七十年余りの歳月を経て、再び銅像建立の日を迎える事ができ、感慨無量でございます。

時代は変わり、銅像に対する想いや心緒は変わりましたが、静子夫人の「薩摩の女性としての生き方」を今の時代に、そして次の世代へと繋げていければと、願っています。

本日はご列席いただき本当にありがとうございます。

心からの感謝を添えてお礼の言葉にかえさせていただきます。

平成二十八年十一月二十七日

乃木静子夫人奉賛会 銅像建立実行委員会

会長 平瀬 葉子

役員一同



# 乃木静子夫人

作 長浜南城 弹奏 中村光彩

南風薫る鹿兒島に

生まれし君は十八の

乙女となりて夢のごと

乃木家に嫁ぐ身となりぬ

明治三十七年の

日露の交渉敗れしかば

あはただしくも我子等を

戦の場いくさばに送らむと

東京駅に来てみれば

軍服凛々しき兄弟の

顔を埋める旗の波

二人並びて勇ましく

母上さらばの敬礼も

未だ瞼まぶたに残れるに

泣かざる母の尊さよ

長男中尉勝典は二十四歳

南山麓の激戦に

名誉の戦死を遂げ給ひ

次男の少尉の保典二十二歳

総攻撃に先駆けし

爾靈の山に碎散る

悲しき訃報は海越えて

重ねて母に届きける

白金も黄金も玉も何かせん

珍うすの實は子なりぞと

憶良の歌にきくものを

雄々しき母は此の度も

涙を人に見せざりき

ああさり乍ら其の夜は

我が子の部屋に只独り

明して遂に寝ねぎりし

母の想ひを誰か知る

ああ老将功なれど

還る故山に風寒し

萬歳の声 凱旋の歌は巷に轟けど

いとしき子等は二人 呼べど還らぬ儚なさや

いでましてかへります日ひのなしときく

今日のみゆきに會ふぞかなしき

# 乃木静子夫人銅像建立記念式典

会場 ホテルパレスイン鹿児島  
日時 正午 (受付 午前十一時半)

## 式次第

正午

一、乾杯

那須乃木神社宮司

渡 健二様

〽 ご会食 〽  
ご歓談

午後十二時四十分

一、開式の辞

乃木静子夫人奉賛会副会長

小島 和彦

一、謝辞

乃木静子夫人奉賛会会長

平瀬 葉子

一、御来賓紹介

衆議院議員  
参議院議員  
中野湯地会代表  
神戸村野工業高等学校理事長  
東京乃木神社宮司  
志學館大学教授 (奉賛会顧問)

保岡 興治様  
山東 昭子様  
湯地 定郎様  
村野 利昭様  
加藤 司郎様  
原口 泉様

午後一時三十分

一、記念講話

『乃木静子 聖将を支えた生涯』  
大阪国際大学講師

久野 潤先生

一、万歳三唱

神戸市議会議員 (奉賛会理事)

村野 誠一様

一、閉式の辞

乃木静子夫人奉賛会副会長

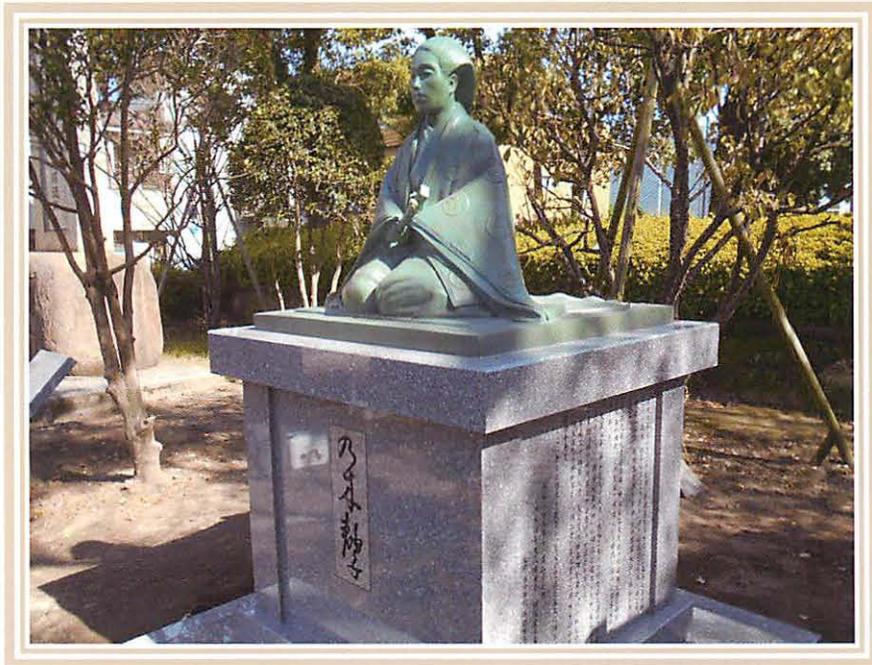
川窪 宏一

# 乃木静子夫人奉賛会役員名簿

役職	氏名	備考
顧問	原口 泉	志学館大学教授・鹿児島県立図書館館長
相談役	米盛 庄司	米盛建設株式会社会長
相談役	宮田 一男	船魂神社宮司
会長	平瀬 葉子	竹迫温泉
副会長	小島 和彦	新屋敷町内会会長
副会長	川窪 宏一	かわくぼ住宅株式会社
理事	増田 敏雄	新屋敷東町内会会長
理事	武 昭一	鹿児島女子短期大学客員研究員
理事	佐藤 高広	鹿児島市議会議員
理事	平田 富美子	
理事	押井 啓一	押井会計事務所
理事	幾村 雪江	幾村清徳市議会議員御令室
理事	前迫 栄二郎	前迫石材株式会社
理事	光増 秀昭	霧島神宮権禰宜 鹿神青顧問
理事	坂口 昌八	株式会社フタバ
理事	鈴木 和子	鹿児島市観光案内
理事	下原 實清	有限会社下原商事代表取締役
理事	村野 誠一	神戸市会議員・当会関西支局長
理事	大迫 蓉子	鹿児島桜友会
理事	杉元 スミ子	甲突町内会会長
理事	上川 雅重	甲突町第一町内会会長
理事	中島 和美	清滝町内会会長
理事	新西 耕三	錦江町町内会会長
理事	飯山 登	城南町町内会会長
理事	永田 哲夫	南林寺町町内会会長
理事	原口 政雄	南林寺町町内会前会長
監事	築瀬 恵璃	
監事	宮原 清滸	
事務局長	宮田 昇	船魂神社禰宜 鹿神青顧問
事務局補	宮田 薫	船魂神社権禰宜 鹿神青顧問
事務局補	宮原 聡伺	ブルーキャメル

## 乃木静子夫人奉賛会事務局

〒892-0838 鹿児島県鹿児島市新屋敷町五番十五号（船魂神社内）  
 電話〇九九―二二六―七四五七 FAX〇九九―二二二―〇一九五



## 乃木静子夫人 銅像

### ブロンズ

納入 株式会社ナカムラ  
像製作 株式会社老子製作所（富山県）

### 台座石

製作・施工 前迫石材株式会社  
使用石材 台座本体：徳山御影石（山口県産）  
銘板：万成石（岡山県産）  
銘板文字 乃木静子 直筆使用  
碑文 監修：原口 泉（志学館大学教授）

### 寸法

ブロンズ像 100×100×90（cm）  
台座 180×180×120（cm）  
全長 210（cm）



乃木静子夫人奉賛会事務局(船魂神社 社務所内)

〒892-0838 鹿児島市新屋敷町5番15号

TEL:099-226-7457 FAX:099-222-0195

URL:[http://www.geocities.jp/shizuko\\_housankai/](http://www.geocities.jp/shizuko_housankai/)

Email:[shizuko\\_housankai@yahoo.co.jp](mailto:shizuko_housankai@yahoo.co.jp)

郵便局振替口座

【加入者名】乃木静子夫人奉賛会事務局

【記号番号】01790-1-142838